

令和2年度
(第4期)

事業計画
収支予算

名古屋四日市国際港湾株式会社

はじめに

当社は、平成 29 年 5 月 17 日に設立された後、同年 9 月 1 日に、国土交通大臣から伊勢湾で一つの港湾運営会社として指定され、名古屋港及び四日市港のコンテナターミナルの一元的な管理運営を開始しました。

現在、港湾を取り巻く貿易・物流などの環境は大きく変動していますが、伊勢湾の後背地に集積する「ものづくり産業」が国際競争力をもって益々発展して行くことは、我が国の経済・産業の発展、市民生活の向上につながるものと考えており、当社は、この地域の発展にロジスティクスの部分で貢献できるよう、平成 30 年度から令和 2 年度（2018 年 4 月～2021 年 3 月）までの 3 カ年の中期経営計画を策定し、各種取組を進めています。

伊勢湾（名古屋港・四日市港）のコンテナターミナルを利用者に選んでいただけるよう、当社の使命である効率的で競争力のあるファシリティとサービスを提供し、継続して生産性の向上、競争力の強化に取り組めます。

1 事業計画

中期経営計画の実現に向けて、その最終年度となる令和 2 年度も、コンテナターミナルの効率的運営・機能強化、船舶大型化への対応等に向けた取組を進めます。

また、AI、IoT など情報化の進展・技術革新の動向を注視し、効率化につながる方策を検討するとともに、経済的支援を継続します。

港湾利用の促進に向けては、港湾管理者、利用促進協議会、商工会議所等と連携して取組を進めるとともに、当社独自の営業展開を図っていきます。

さらに安全・安心、環境に配慮した施設提供に努め、安定した事業運営のための財政基盤の強化、運営体制の強化に向けた取組を進めます。

令和 2 年度は、売上高 4,955,600 千円を、売上原価は 4,760,000 千円を見込んでおり、これに販売費及び一般管理費、営業外損益を含めた経常利益及び税引前当期純利益は、26,100 千円を見込んでいます。

(1) 効率的な管理運営

国、港湾管理者及び名古屋港埠頭株式会社から借受けている飛島ふ頭東側・南側、鍋田ふ頭、霞ヶ浦北・南埠頭のコンテナターミナル施設（岸壁、荷さばき地、ガントリークレーン等）に、当社が整備したガントリークレーン（飛島ふ頭南コンテナターミナルの3基）を含め、名古屋港及び四日市港のコンテナターミナル事業者等へ貸付を行います。

名古屋港においては、令和2年度内に飛島ふ頭南コンテナターミナルのガントリークレーン3号機を更新し、貸付を行います。

四日市港においては、平成30年8月17日に発生した船舶の岸壁等への接触事故については、国及び港湾管理者等からの支援・協力のもと、一部、復旧を果たしましたが、引き続き、関係者との連携を密にして、早期に完全復旧が図れるよう関係者と連携して取り組みます。

(2) 船舶大型化への対応

名古屋港においては、コンテナターミナルの機能強化のため、飛島ふ頭南コンテナターミナルのガントリークレーンについて、令和元年度から実施している3号機の更新工事（2年目）を完了し、新3号機設置前に必要となる既設3号機の撤去解体工事を所有者である名古屋港管理組合から受託し施工します。

また、国が実施しているNCBコンテナターミナルの岸壁改良工事に併せて、令和2年度から4年度の予定で、ガントリークレーン（2基）の新設工事（1年目）に着手します。

四日市港においては、コンテナ機能集約による高度化・効率化を図る必要があるため、霞ヶ浦地区北埠頭での新たなコンテナターミナルの整備について、国や港湾管理者等とともに新規事業化に向けた取組を進めます。

ア 建設計画

埠頭区分	事業内容	当期計画額
飛島ふ頭		千円
南コンテナターミナル	ガントリークレーン3号機更新工事 (旧16列対応→20列対応)	645,600
NCBコンテナターミナル	ガントリークレーン新設工事(2基) (旧17列対応→22列対応)	161,400
合 計		807,000

NCBコンテナターミナルにおけるガントリークレーン新設工事の当期計画額は端数調整してあります。

イ 資金調達

建設計画の財源は、港湾法の規定に基づき、政府無利子借入金、港湾管理者無利子借入金、特別転貸債及び自主財源で構成され、資金調達については、下表のとおりです。

政府無利子	港湾管理者 無利子	特別転貸債	自主財源	計
千円	千円	千円	千円	千円
322,800 (4割)	322,800 (4割)	80,700 (1割)	80,700 (1割)	807,000

自主財源については全額市中銀行からの借入金を予定しています。

(3) 情報化の進展・技術革新への対応

ア NUTS改良・開発支援

現在、名古屋港の全てのコンテナターミナルを一元管理し、物流効率化に寄与している名古屋港統一ターミナルシステム「NUTS (Nagoya United Terminal System)」の更なる機能向上を図るため、名古屋港運協会が進める同システムの改良プロジェクト「NUTS Second」への経済的支援を継続します。

支援対象者：名古屋港運協会

支援金額：年間 10,000 千円以内

支援期間：令和元年度から 5 年間

イ AI、IoT など技術革新への対応

名古屋港においては、平成 30 年度に国主導のもと、AI、IoT、自動化・遠隔操作化技術や位置情報システム等の技術を導入することで、生産性向上、労働環境の改善を図り、名古屋港のコンテナターミナル運営の更なる効率化を実現することを目的として設置された検討会に継続して参画を予定し、コンテナターミナルの運営効率化を検討します。

四日市港においては、霞ヶ浦地区北埠頭での新たなコンテナターミナルの整備を見据え、港湾運送事業者、国、港湾管理者等とともに AI ターミナル導入に向けた検討を進めます。

(4) 利用促進に向けた取り組み

港湾の利用促進については、ポートセールスに参加するなど関係機関と連携して取り組みます。

また、当社独自の営業展開を図るため、荷主や船社等の港湾利用者の動向やニーズを把握し、使いやすい選ばれる港湾を目指します。

(5) 防災・減災への取り組み

名古屋港、四日市港が大規模災害に備えて、それぞれで作成している港湾機能継続計画（港湾BCP）を実効的な計画とするため設置している各港の港湾BCP協議会へ参画し、関係者と連携しながら災害発生時のコンテナ貨物物流の早期の機能回復を目指します。

名古屋港においては、国が実施しているNCBコンテナターミナルの岸壁（耐震）改良工事に併せて、免震ガントリークレーン（2基）の新設工事（1年目）に着手します。

四日市港においては、コンテナ物流の災害対応力を確保するため、霞ヶ浦地区北埠頭での新たなコンテナターミナルの新規事業化に向けた取り組みや、津波・高潮によるコンテナターミナル機能維持に向けた整備について、国及び港湾管理者とともに検討を進めます。

(6) 環境負荷低減への取り組み

環境に配慮した施設提供を図るため、ガントリークレーンの更新では、飛島ふ頭南1号機からLED照明を導入しており、今後も順次更新時に採用します。

また、国際海事機関（IMO）による船舶からの排出ガス規制強化への対応策が求められる中、環境負荷低減施策の一つとして、バンカリングが円滑にできる環境の増進につながるよう港湾管理者等に協力します。

2 収支予算

損益計算書（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

（単位：千円）

科 目	第3期予算 (A)	第3期通期予想 (B)	第4期予算 (C) (R2. 4. 1～ R3. 3. 31)	比 較 (C) - (A)
	(H31. 4. 1～R2. 3. 31)			
売上高	4,908,980	4,883,000	4,955,600	46,620
売上原価	4,708,000	4,644,800	4,760,000	52,000
売上総利益	200,980	238,200	195,600	▲ 5,380
販売費及び 一般管理費	168,500	141,500	166,200	▲ 2,300
営業損益	32,480	96,700	29,400	▲ 3,080
営業外収益	0	100	100	100
営業外費用	2,000	2,000	3,400	1,400
経常損益	30,480	94,800	26,100	▲ 4,380
特別損益	0	0	0	0
税引前 当期純損益	30,480	94,800	26,100	▲ 4,380